

## 論文以外のコンテンツ

雑誌名	東洋法学
巻	52
号	2
発行年	2009-03-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00005932/">http://id.nii.ac.jp/1060/00005932/</a>



# 東洋法學

第 52 卷 第 2 号

---

【退職記念号】

圓谷 勝男 教授

佐藤 清勝 教授

エルンスト・ロコバント 教授

## 第51巻 第2号 (2008年3月)

### 【論説】

イギリスにおけるおとり捜査の判断基準と法的効果 (二・完)

宮本 康博

### 【研究ノート】

日本の法文化について

—<Amae>: 未成年者保護法理解のための一つの視点—

森田 明

国際関係法における Legalization に関する研究ノート

齋藤 洋

### 【資料】

アゼルバイジャン共和国の国際私法立法

—「国際私法に関する法律」及び「家族法典」中の国際私法規定—

笠原 俊宏

### 【論説】

「蛇性の姪」における人物形象の創作と中国白話小説の影響について

中田 妙葉

## 第52巻 第1号 (2008年9月)

### 【論説】 (法学系)

ドイツ連邦憲法裁判所の権限—連邦争訟— 名雪 健二

特定調停における二、三の問題—文書提出命令の効用を中心として— 小野寺 忍

韓国商法 (保険編) 改正に関する一考察 李 芝妍

第1順位の先取特権について—黙示の質権 “gage tacite” の法的性質— 深川 裕佳

検査役選任請求と株式の希釈化と原告適格 楠元純一郎

不動産譲渡担保における実行と受戻権

—弁済期到来後の目的物処分の場合について— 太矢 一彦

### 【研究ノート】

オランダ国際親子法に関する研究ノート

—親子関係抵触法を中心として— 笠原 俊宏

### 【翻訳】

マイケル・バイアー「創始する力、義務、そして慣習国際法」 (訳) 齋藤 洋

毘の抗弁—マーカス教授へのインタビュー— (訳) 宮本 康博

### 【特別寄稿】

国際課税におけるみなし外国税額控除 廖 益新

(共訳) 後藤 武秀

佐々木 彩

新潟県にみる平成の大合併と広域行政の変動 (一) 佐藤 俊一

江口 昌樹

### 【論説】 (人文・体育系)

Un discours émancipateur :

un aspect de la *Capitale de la douleur* de Paul Eluard 福田 拓也

Working Identity における John の語りの分析 :

中年期のキャリア・チェンジに伴う心の動き 室松 慶子

近世における江戸庶民の旅の歩行距離について

—道中双六の分析を中心に— 谷釜 尋徳

圓谷勝男教授

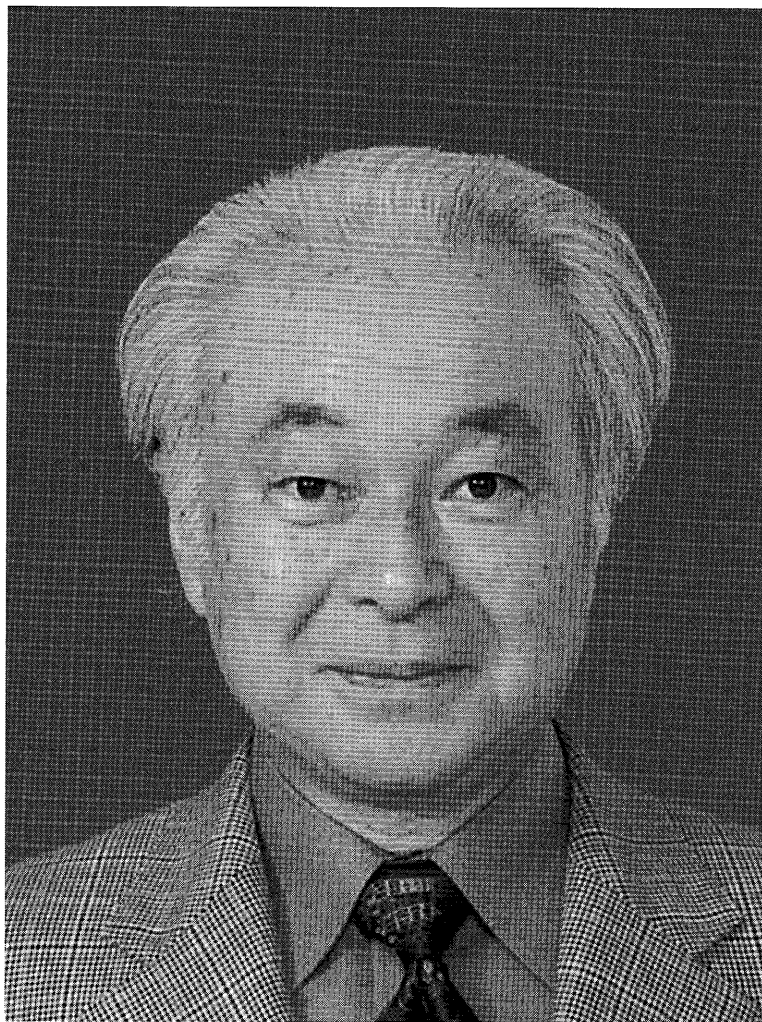
佐藤清勝教授

退職記念号

エルンスト・ロコバント教授



圓谷 勝男 教授



佐藤 清勝 教授



エルンスト・ロコバント 教授

## 献呈の辞

平成二十一年三月末日をもって、圓谷勝男教授、佐藤清勝教授、エルンスト・ロコバント教授の三名の同僚教授が東洋大学法学部をあとにされます。教育、研究という崇高な理念を持つ職場で直接教えを受ける機会を得たことの幸せを噛みしめると同時に、昨今の大学改革で苦楽をともにしてきたことを思いますと、寂寥の思いを禁じえません。

圓谷勝男教授は憲法学とりわけ人權論を専門とされていますが、その根底にはおおらかで慈愛に満ちたお人柄があるのは、私ども後進のよく知るところであります。先生の学問を彩っているものは、単に精緻な憲法学の理論だけでなく、絵画や短歌をこよなく愛される先生の文化に対する飽くなき関心であります。定年後は絵を描き歌作に励むというお言葉を耳にすると、憲法学を憲法文化学とも言うべき地平にまで高められた先生の学問的基底を垣間見る思いがいたします。

佐藤清勝教授は長年にわたって本学全体の英語教育に尽力され、大学改革に伴って法学部に所属されてからは法学部の英語教育の基礎を作られてきました。グローバルイズムの進展の中で語学教育が大きく変わる時期に、学部全体の英語教育を実質的にリードしていただいたことに深甚の謝意を呈したいと思います。先生はまた、スポーツをこよなく愛される方でもあります。しかもそれは自ら実践するにとどまらず、理論研究の高みにまで昇華しており、まもなくゴルフに関する御著書が上梓されるとうかがっています。先生の幅広い教養と温和な人格を慕う学生



も多く、私も後進は、その親身な学生指導を範としていきたいと存じております。

エルンスト・ロコバント教授は、長年にわたってドイツ語教育に携わられてきました。厳格な中にも愛情あふれるドイツ語教育を受けて育った学生の多きを思うとき、先生のご功績の大きさに改めて感謝したいと思います。先生はまた、日本思想とりわけ近代日本の神道思想に関する研究者として世に知られた方でもあります。日本文化の根底にあるものについて日本だけでなく広く世界に向けて発信していただいたことは、今後ますます拡大していく国際交流のために大きな礎を築きあげるお仕事であると言えます。先生の手によって高度なレベルにまで達した日本文化の紹介と発信は、分野を問わず私も後進の受け継いでいかなければならないこととの思いを新たにしているところであります。

専門領域の研究はもとより、深遠な知的関心と高邁なお人柄によって法学部の教育の先頭に立っていただいた先生方に別れを告げるのは、それが制度上いたし方のないこととはいえ、まことに寂しいものがあります。後進一同、先生方より受けた教育、研究上のご恩の大きさに感謝しつつ、そしてまた先生方のお心を継承し発展させることを誓いつつ本論文集を捧げさせていただきます。

平成二十一年（二〇〇九）年三月

東洋大学法学会会長  
東洋大学法学部長

後 藤 武 秀

# 目次

献呈の辞 ..... 法学会会長・法学部長 後藤武秀  
圓谷勝男教授 佐藤清勝教授 エルンスト・ロコバント教授 略歴・主要業績

## 【論説】(法学系)

いわゆる「不法領得の意思」をめぐる判例の動向について .....	伊藤 渉 (1)
三者間における相殺の類型的検討—三者間相殺に関するフランス民法との比較— .....	深川 裕佳 (21)
請負契約における複数関与者と法律関係・序説—下請負人を素材として— .....	芦野 訓和 (55)
金商法159条2項所定の『誘引目的』に関する若干の考察 .....	堀口 勝 (75)
保険金支払債務の履行期と消滅時効の起算点 .....	李 芝妍 (101)
おとり捜査に対する抗弁についての米国裁判例の動向 (一) 一貫の抗弁とデュー・プロセス .....	宮木 康博 (123)

## 【研究ノート】

戦後日本の国政選挙制度の変革 .....	加藤秀治郎 (161)
フランスにおける充填式抵当権 (l'hypothèque rechargeable) と抵当権付終身 貸付 (le prêt viager hypothécaire) について —グリマルディ教授の解説を中心として— .....	大矢 一彦 (185)
リトアニア国際私法の改正について—新旧立法の比較— .....	笠原 俊宏 (211)

## 【紹介】

櫻井光堂『古代日本領土の起原—日本領土の発祥的形態に関する研究—』 .....	齋藤 洋 (253)
---	------------

## 【特別寄稿】

新潟県にみる平成の大合併と広域行政の変動 (二・完) .....	佐藤 俊一 (263)
Introducing the structure and activities of the United Nations Institute for Training and Research (UNITAR) - as an example of United Nations organisations within Japan that are strengthening her international contribution .....	ジェイムズ・ショート (328)

## 【論説】(人文・体育系)

《蛇性之姪》怪异反映出的世界——《白娘子永镇雷峰塔》与《蛇性之姪》的母题与嬗变 .....	中田 妙葉 (350)
Le regard purificateur dans l'œuvre surréaliste d'Eluard .....	福田 拓也 (376)
幕末期におけるオランダ式軍事訓練の歩行の特徴について —日本古来の歩行との比較を中心として— .....	谷釜 尋徳 (396)

【学会活動】 .....	(398)
--------------	-------

圓谷 勝男 教授 略歴

- 一九六二年 三月 東洋大学法学部法律学科卒業  
一九六二年 四月 埼玉県立高等学校教諭（与野（定）・上尾・上尾南）  
一九六四年 三月 東洋大学文学部哲学科卒業  
一九六六年 三月 東洋大学大学院法学研究科修士課程修了  
一九七八年 四月 東京家政大学非常勤講師  
一九七九年 四月 東洋大学法学部非常勤講師  
一九八五年 三月 埼玉県立高等学校教諭退職  
一九八五年 四月 東洋大学法学部法律学科専任講師  
一九八八年 四月 東洋大学法学部法律学科助教  
一九九五年 四月 東洋大学法学部法律学科教授  
一九九七年 四月 東洋大学大学院法学研究科憲法担当  
一九九八年 四月～二〇〇〇年三月 東洋大学通信教育部々長  
一九八四年 十月 朝霞市情報公開・個人情報保護審議会々長

## 主要業績等

### 一 著 書

一九七九年 『私達と女性問題―女子労働判

例研究』（編著） 東京家政大学

一九七九年 『憲法と現代法学』（単著）

高文堂出版社

一九八四年 『憲法判例の研究』（単著）

高文堂出版社

右書『全国学校図書館協議会選

定図書』

一九九〇年 『日本国憲法概説』（単著）

高文堂出版社

一九九五年 『人権の現代的構造と課題』（単著）

高文堂出版社

一九九六年 『現代憲法と市民法』（単著）

高文堂出版社

二〇〇三年 『現代人権論考』（単著）

高文堂出版社

二〇〇八年 『歌集 こころの旅』 風心堂

### 二 論 文

一九九一年 「民主社会と『知る権利』」

『東洋法学』三一巻一号

一九九二年 「表現の自由と刑法一七五条」

『比較法』三二号

二〇〇一年 「自己決定権の今日的覚悟」

『東洋』三九巻二号

その他論文 二二五

## 佐藤 清勝 教授 略歴

昭和13年7月9日生

本 籍：埼玉県

平成11年4月、大学学部改革により、文学部英語コミュニケーション科目・英語担当から法学部所属、現在に至る。

## 主要業績

「There 構文の主語について」

昭和44年2月『白山英文学』13号 東洋大学英米文学研究室

「Have + NP + ( - en) の構造」

昭和50年2月『吉川美夫教授古稀記念論文集』東洋大学英米文学研究室

「抽象名詞の一考察」

昭和54年3月『東洋大学紀要 教養課程編』第18号

「He is thought to be a fool. 構文再考」

昭和54年9月『東洋』第8・9号 東洋大学通信教育部

「I think it necessary to finish the work. 構文」

昭和54年9月『白山英米文学』第5号 東洋大学英米文学研究室

「I think the story true. 構文」

昭和55年3月『東洋大学紀要 教養課程編』19号

「新聞英語に見る S,NP was quoted as saying. の用法」

昭和59年11月『東洋』第11号創立20周年記念号

「think 類動詞の受動文構造」

昭和56年6月『藤川玄人教授還暦 記念論文集』中央公論事業出版

「Beer is supposed to be easy to brew. 構文」

平成元年3月『東洋大学紀要 教養課程編』28号

「He is a difficult person to please. 構文」

平成 2 年 3 月『東洋大学紀要 教養課程編』29号

「使役動詞の不定詞補文構造」

平成 4 年 3 月『東洋大学紀要 教養課程編』31号

「I made myself understood in English. 構文」

平成 5 年 3 月『東洋大学紀要 教養課程編』32号

「作為動詞補文構造」

平成 5 年 3 月『東洋大学紀要 教養課程編』32号

「He met her going down the stairs. 構文」

平成 6 年 3 月『東洋大学紀要 教養課程編』33号

「I hear say that 補文構造」

平成 6 年 3 月『東洋大学紀要 教養課程編』33号

「形式目的語 it 構文生成」

平成 7 年 3 月『東洋大学紀要 教養課程編』34号

「英語の三人称代名詞の日本語訳について」

平成10年 4 月『東洋』1・2 号 東洋大学通信教育部

「MAKE の補文構造について」

平成13年 3 月『東洋大学紀要 「言語と文化」』創刊号

「ゴルフ：アマチュアスウィング考－Ⅱ、暫定的なアマ式打法」  
(共著)

平成14年 2 月『東洋大学経済論集』第27巻 1・2 合併

「英語の応答文」

平成14年 6 月『東洋』第39巻第 3 号 東洋大学通信教育部

「ゴルフ：アマチュアスウィング考－Ⅲ、スウィング動作の組み合わせ事例」(共著)

平成15年 3 月『東洋大学経済論集』第28巻第 2 号

「英語のつながり」

平成15年 7 月『東洋』第40巻第 4・5 号 東洋大学通信教育部

「英語の発想」

平成16年 9 月『東洋』第41巻第 6 号 東洋大学通信教育部

「英語の名詞句」

平成20年10月『東洋』第45巻第 7 号 東洋大学通信教育部

『ゴルフ・ヒンジ打法』(共著)

平成21年 2 月 中央図書

エルンスト・ロコバント教授(Prof.Ernst Lokowandt)

1944年 ドイツ帝国東プロイセン（後にソ連領）に生まれ、翌年ザクセン（後にソ連軍占領地区、その後はドイツ民主共和国）へ亡命、1953年にバーデン＝ヴュルテンベルクへ移転

1964年 ハンブルク大学文学部入学（日本研究）

1966年 ボン大学文学部転学（日本研究）

1969年 日本語ディプローム取得（ボン大学付属東アジア言語研究所）

1970年 國學院大学に留学（神道、日本近代史）

1976年 博士号取得（ボン大学文学部）

1978年 （社）OAG（ドイツ東洋文化研究協会）研究主事

1978年～81年 国学院大学日本文化研究所研究員

1985年 東洋大学助教授（文学部教養課程ドイツ語）

1992年 同大学教授、（社）OAG 会長（95年まで）

2000年 文学部教養課程より法学部へ移る

2009年 退職

この間、最後の東洋大学比較法研究所長、OAG（ドイツ東洋文化研究協会）理事、憲法学会理事、宗教法学会理事を歴任。

【主要論文】

1. 「ドイツにおける日本研究」『國史學』第85号（1971年9月）
2. “Die rechtliche Entwicklung des Staats-Shintô in der ersten Hälfte der Meiji-Zeit (1868-1890)”, *Studies in Oriental Religions Vol.3*, Harrassowitz, Wiesbaden 1978.
3. “Zum Verhältnis von Staat und Shintô im heutigen Japan. Eine Materialsammlung”, *Studies in Oriental Religions Vol.6*, Harrassowitz, Wiesbaden 1981.,
4. Das Vorwort überarbeitet als: “Das Verhältnis von Staat und Shintô im gegenwärtigen Japan”, *OAG aktuell*, Tokyo 1980.
5. 「神社新報社編『近代神社神道史』に於ける明治前半の神道史の評価について」  
國學院大學日本文化研究所刊『維新前後に於ける國學の諸問題』國學院大學創立百周年記念論文集（1983年）
6. 「国家神道の成立時期について」『東洋大学紀要教養課程篇』第26号（1987年）
7. “Das japanische Kaisertum - religiöse Fundierung und politische Realität”, *OAG aktuell Nr. 35*, Tokyo 1989.
8. “Die Stellung des Tennô in der Staatsführung - Die rechtliche Regelung der Herrschaftsbefugnisse des Kaisers unter der Meiji-Verfassung”, *Oriens Extremus*, Hamburg, 1990.
9. 「明治憲法下での国家指導部における天皇の地位—法制的の観点から見て—」『思想』1990年11月号
10. 「国家神道の発展と機能—現代の国家と宗教の分離制度の背景として—」宗教法学会『宗教法』第9号（1990年）
11. 「現代日本の文化や社会における神道的要素」財団法人神道文化会『神道文化』第三号（1991年）
12. 「神道と日本文化」（再掲載）現代神道研究集成編集委員会編『現代神道研究集成』第十卷（神社新報社、2000年）
13. “Zur Struktur der japanischen Staatsführung: Meiji-Staat und heute”, *Münchener japanischer Anzeiger Nr.4*, München, Oktober, 1992.
14. 「民族と国家」『東洋大学紀要教養課程篇』第32号（1993年3月）



15. “Der Staat als Selbstzweck- Staatszwecke und -ziele in Japan”, *OAG aktuell Nr.61*, Tokyo, 1994, 53 S.
16. “Staatsrecht und Religion in Japan”, in: *Spirita - Zeitschrift für Religionswissenschaft* 9. *Jahrgang Heft 2/95*, Marburg 1995.
17. 「皇室典範の特異性と機能」 富坂キリスト教センター編『近代天皇制の形成とキリスト教』（新教出版社、1996年）
18. “The Imperial House Law of 1889 and its Meaning for the Position of the Tennô in the Meiji State”, in: Ian Neary (Ed.): *Leaders and Leadership in Japan, Japan Library* (Curzon Press), Richmond, 1996.
19. “Die Staatsbezogenheit der Shintô-Schreine: Traditionelles Charakteristikum oder Neuerung der Meiji-Zeit - oder beides?”, in: Klaus Antoni (Hrsg.): *Rituale und ihre Urheber- Invented Traditions in der japanischen Religionsgeschichte*, Lit Verlag, Hamburg, 1997.
20. 「明治憲法—ドイツ諸憲法を背景にして—」『福岡ユネスコ協会』第33号（1997年）
21. 「日本とドイツにおける『市民宗教』の問題」（国際シンポジウム『文化比較の中の日本法』）東洋大学比較法研究所『比較法』第36号（1999年3月）
22. “Reform des politischen Systems - Warum heute?”, Werner Schauermann (Hrsg.): *Japans Kultur der Reformen - Referate des 6. Japanologentags der OAG in Tokyo, iudicium verlag*, München 1999.
23. “Shintô - Eine Einführung”, *iudicium verlag*, München, 2001S.
24. 「宗教と法」憲法学会『憲法研究』第34号（2002年5月）
25. 「政教分離—アメリカの実態、そして日本—」東洋大学比較法研究所『比較法』第40号（2003年3月）
26. “Rechtsauffassung und Funktionen des Rechts in Japan”, *OAG Notizen 11/2003*, OAG Tokyo 2003.

【編 集】

1. “Referate des 1. Japanologentags der OAG in Tokyo 7./8. April 1988”, *iudicium verlag*, München 1990.
2. “Zentrum und Peripherie in Japan - Referate des 2. Japanologentags der OAG in Tokyo 8./9. März 1990”, *iudicium verlag*, München 1992.
3. Albert und Lina Mosse: “Fast wie mein eigen Vaterland - Briefe aus Japan 1886 – 1889”, *iudicium verlag*, München, 1995, 532 S.

【書 評】

1. 葦津珍彦著『国家神道とは何だったのか』（『正論』1987年10月号、『東洋』1988年2・3月号）
2. Klaus Antoni: “Der heilige Trank. Zur Geschichte und religiösen Bedeutung des alkoholischen Getränkes (sake) in Japan”, in: *Asian Folklore Studies*, Nanzan University, Nagoya 1989.
3. Vera Schmidt (Hrsg.): “Alexander von Siebold: Die Tagebücher”, 3 Bde., Harrassowitz, Wiesbaden 1999, 2352 S., in: *Monumenta Nipponica Vol.55 No.3*, Sophia University 2000.
4. Junko Ando: “Die Entstehung der Meiji-Verfassung - Zur Rolle des deutschen Konstitutionalismus im modernen japanischen Staatswesen (Monographien aus dem Deutschen Institut für Japanstudien der Philipp Franz von Siebold Stiftung, Bd. 27)”, *iudicium verlag*, München, 2000, 273 S., OAG Notizen 10/02, OAG Tokyo 2002.
5. Alistair Swale: “The Political Thought of Mori Arinori: A Study in Meiji Conservatism”, Curzon Press, Richmond 2000, *Monumenta Nipponica Vol.58 No.1*, Sophia University 2003.

## Articles (jurisprudence)

- Recent Cases about So-called “Animus Furandi”..... Wataru ITO ( 1 )
- Essai sur les Types de la Compensation Triangulaire dans  
Droit Civil..... Yuka FUKAGAWA ( 21 )
- Die Einleitung über die meheren Teilnehmern und seiner  
Rechtsverhältnisse im Werkvertrags..... Norikazu ASHINO ( 55 )
- A study on “for the purpose of inducing sale and purchase  
of Securities” provided in Article 159 (2) of Financial  
Instruments and Exchange Act..... Masaru HORIGUCHI ( 75 )
- The fulfillment period of insurance payment obligation and  
the commencement of extinctive prescription..... Jiyeon LEE (101)
- The developments of US court decisions regarding defense  
against sting operations —entrapment defense and due process—  
..... Yasuhiro MIYAKI (123)

## Notes

- Changes in Electoral Systems in Japan since 1945..... Shujiro KATO (161)
- Une étude sur la réforme des sûretés en France: l'hypothèque  
rechargeable et le prêt viager hypothécaire..... Kazuhiko TAYA (185)
- Reform of Lithuanian Private International Law..... Toshihiro KASAHARA (211)

## Book Review

- Kōdō SAKURAI, *A Study on the Legal Methods to Establish  
Territorial Spaces in Ancient Japan*..... Hiroshi SAITO (253)

## Contributions

- The large merger of Heisei and changes of broader-based  
administration in Niigata prefecture (2·end)..... Shun'ichi SATO (263)  
Masaki EGUCHI
- Introducing the structure and activities of the United Nations  
Institute for Training and Research (UNITAR)-as an example  
of United Nations organisations within Japan that are  
strengthening her international contribution..... James Daniel Short (328)

## Articles (humanities and sports science)

- The Grotesque World Reflected in “Jasei no in 蛇性之姪”  
——A thematic analysis from “Bainiangzi yongzhen Leifengta  
白娘子永鎮雷峰塔” to “Jasei no in 蛇性之姪” ——..... Wakaba NAKATA (350)
- Le regard purificateur dans l'œuvre surréaliste d'Eluard..... Takuya FUKUDA (376)
- Characteristics of Walking Dutch-Method Military Training  
during the Late Tokugawa Shogunate (Edo Era)..... Hironori TANIGAMA (396)

## Miscellaneous

二〇〇八年度法学会会員（五十音順） ◎会長 ○編集委員長 ※編集委員

芦野 訓和(准教授・財産法)	谷釜 尋徳(講師・スポーツ史)
李 芝妍(講師・商法)	※太矢 一彦(准教授・民法)
伊藤 渉(准教授・刑法)	※圓谷 勝男(教授・憲法)
井上 貴也(教授・商法)	※中田 妙葉(准教授・日中比較文学)
※今井 雅子(教授・英米法)	中村 恵(准教授・家族法)
遠藤 喜佳(教授・商法)	名雪 健二(教授・憲法)
※大森 文彦(教授・建築関連法)	深川 裕佳(講師・民法)
※小野寺 忍(教授・民事訴訟法)	福田 拓也(准教授・二十世紀フランス文学)
笠原 俊宏(教授・国際私法)	堀口 勝(准教授・金融商品取引法)
※加藤秀治郎(教授・政治学)	三浦美沙子(教授・体育教育学)
※鎌田 耕一(教授・労働法)	三沢 元次(教授・民法)
楠元純一郎(教授・商法)	※宮木 康博(講師・刑事訴訟法)
小林 秀年(教授・民法)	武藤 眞朗(教授・刑法)
◎後藤 武秀(教授・比較法制史)	室松 慶子(准教授・言語学)
○齋藤 洋(教授・国際公法)	※盛岡 一夫(教授・知的財産権法)
櫻本 正樹(教授・倒産法)	森田 明(教授・未成年者保護法)
佐藤 清勝(教授・英語学)	山下りえ子(教授・民法)
佐藤 俊一(教授・行政学)	ロコバント・エルンスト(教授・国家学)
高野 幸大(教授・行政法)	若林 建志(教授・中国の言語と文化)
多田 英明(准教授・経済法)	

平成二十一年三月一日 印刷発行

## 東洋法学 第五十二巻第二号

東洋大学法学会会長

編集兼 後藤 武 秀  
発行人

発行所 東洋大学法学会

〒一一二―八六〇六

東京都文京区白山五―二八―二〇

電話 〇三(三九四五)七四二五

FAX 〇三(三九四五)七六二七

制作者 蕨友印刷株式会社

〒一一三―〇〇〇一

東京都文京区白山一―二三―八

# TOYOHOGAKU

Vol.52 No.2

---

## **Essays in honor of**

Prof. Katsuo Tsuburaya

Prof. Kiyokatsu Sato

Prof. Ernst Lokowandt

**on the occasion of their Retirement**

---

March 2009 No.112

HOGAKUKAI  
TOYO UNIVERSITY

5-28-20 Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8606 Japan